

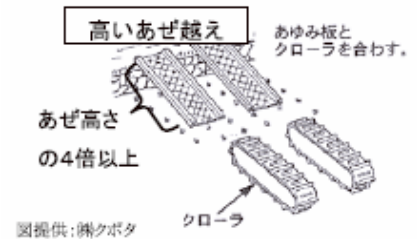
コンバインの収穫作業手順

□ コンバインオペレーターの操作手順 □

1. 収穫作業は、夜露で濡れた稲の葉が乾いた頃（10時～11時頃）から始めます。

2. 圃場への侵入・退出

- ① 低いあぜ越えは、あぜに対し直角で進入します。
- ② 高いあぜ越え（10cm以上）の場合は、あゆみ板を使用します。
- ③ 圃場から退出する場合は、前進で出ます。



3. 圃場での刈取は運転席を畦畔寄りにし、左回りの運転とします。

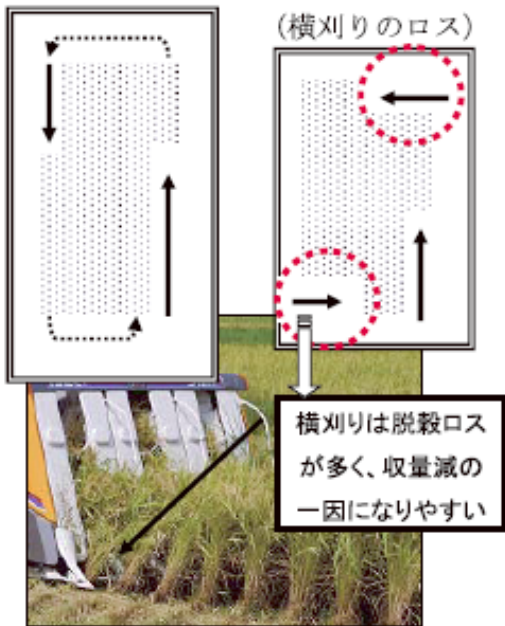
（刈り残しや稲の状況により右回り運転をする場合もあります）

4. 最初の畦畔寄り刈取は、右刈取部デバイダに特に注意します。（ゆっくり刈取る）

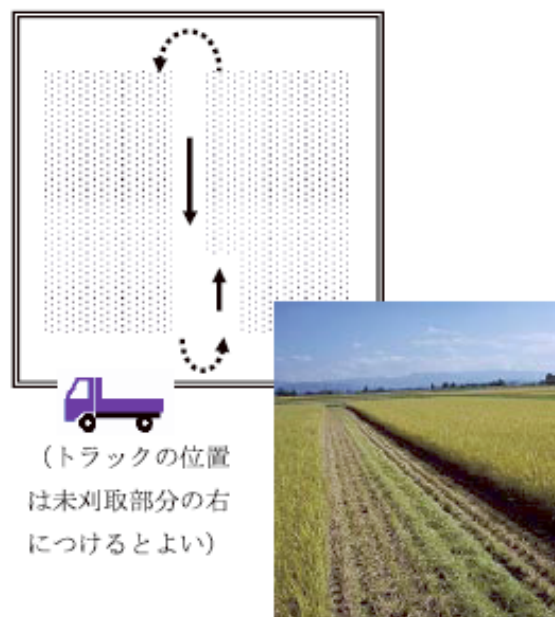
5. バック時は用水バルブ・排水口・暗渠排気口などに充分注意します。

6. 脱穀ロスの少ない効率的な刈り取り方法を実施しましょう。（刈取方法は右面）

① 条刈り（2方向刈り）



② 中割り（大圃場の刈取）



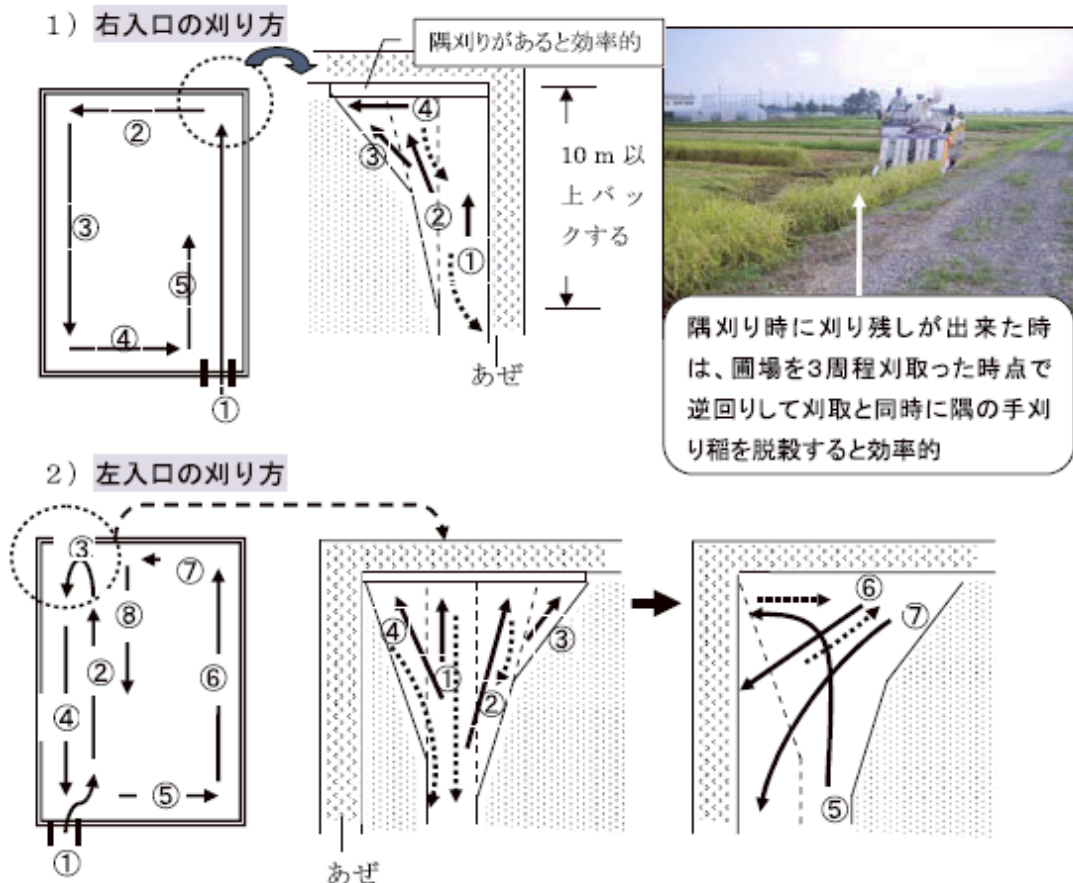
7. 背の高いヒエがある場合や、草丈が低い稲の場合などは、自動制御（刈り高さ、こぎ深さ）を使わないようにします。（こき胴に一定量が入りにくいので）



8. 進入口別の刈り取り方法

- 隅刈りは下図の要領で最初に刈り取りした後を最低でも10m以上バックして角刈り（コーナー刈り）をする。
- 2回目のスタートは1株掛ける程度から到達時5～6株を目視して直線にて行う。
- 3回目も同じ要領で行い、刈りながらの方向修正は行わないこと。（刈残しの発生防止）

※ 圃場が柔らかい場合は、バックの距離を大きくとること。



9. 籾の搬出時にはコンバインを搬送トラックに向かってバックで着けると、距離の調整がしやすくなります。また、籾排出アームの出口と搬送トラックの荷口が近づきすぎると詰まる原因となります。



10. 圃場から退出する時や圃場間の移動時には、必ず籾タンクを空にして出ます。

11. 完全倒伏稲の刈り方のポイント

1) 倒伏稲は稲が重なりあったところが乾きにくいので、濡れたまま刈り取りをした場合、コンバインのこぎ胴の受け網が濡れた茎葉で詰まります。このため、刈り取り時間はやや遅く始めます。

2) 刈り取りポイント

- ① 条合わせを必ず行います。
(取扱説明書を参照)
- ② 枕地は倒れたイネの株元の側から「追い刈り」をします。
・前進・後進を繰り返しながら一方向だけから刈り取ります。
- ③ 旋回が可能になったら、条方向に「追い刈り」や「左倒伏刈り」になるよう往復しながら刈り取ります。



12. 倒伏稲でコンバインが詰まる要因

- ① 条合わせができない倒伏状況(向い刈りや右倒伏刈りなど)の場合や条合わせができない横刈りは、デバイダの先が稲株に刺さり、稲株を土ごと持ち上げるため、搬送チェーンや脱穀部で詰まる原因になります。
- ② 右図のように、条合わせをしながら倒伏稲を刈り、刈り残しがある条に斜め刈りに入ると、デバイダの先で稲ワラを引っ掛け、稲株を持ち上げ詰まる要因になります。このため、斜め刈りを止め、刈り残し、後で処理する。

